

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

(イ)

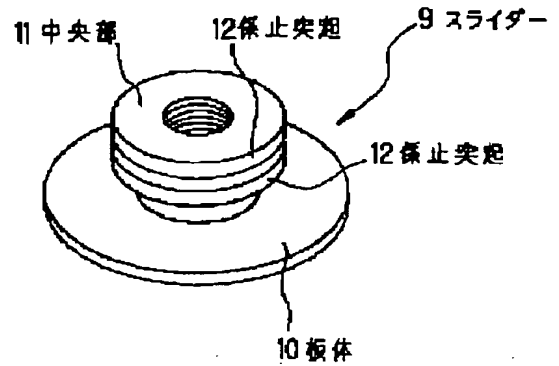
PUBLICATION NUMBER : 2000335193
PUBLICATION DATE : 05-12-00
APPLICATION DATE : 28-05-99
APPLICATION NUMBER : 11149058

APPLICANT : TOMBOW PENCIL CO LTD;

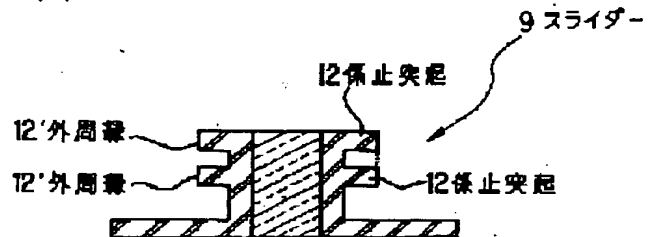
INVENTOR : MURAKOSHI YASUO;

INT.CL. : B43M 11/00

TITLE : SLIDER OF STARCH CONTAINER



(ロ)



ABSTRACT : PROBLEM TO BE SOLVED: To use up a rod-like starchy body fixed to a slider effectively as much as possible under the state that the rod-like starchy body is surely fixed to the slider.

SOLUTION: In this starch container, a plurality of engaging projections 12 are formed on the side face of the cylindrical central part 11 of a plate body 10 comprising a slider 9, to which a rod-like starchy body 8 is fixed. The rod-like starchy body can be prevented from falling off the slider, since both of them strongly engage with each other through these engaging projections. At the same time, by using a starch container under the state being fallen sideways, the rod-like starchy body fixed to the slider can be used up until the starchy body reaches the outer peripheral edge of the engaging projection of the slider.

COPYRIGHT: (C)2000,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2000-335193
(P2000-335193A)

(43) 公開日 平成12年12月5日 (2000.12.5)

(51) Int.Cl.⁷
B 4 3 M 11/00

識別記号

F I
B 4 3 M 11/00

特開2000-335193A (参考)
A

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平11-149058

(22) 出願日 平成11年5月28日 (1999.5.28)

(71) 出願人 000134589

株式会社トンボ鉛筆
東京都北区豊島6丁目10番12号

(72) 発明者 村越 恭夫

東京都北区豊島6丁目10番12号 株式会社
トンボ鉛筆内

(74) 復代理人 100100767

弁理士 湯浅 正彦

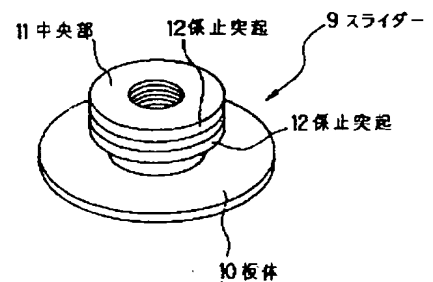
(54) 【発明の名称】 糊容器のスライダー

(57) 【要約】

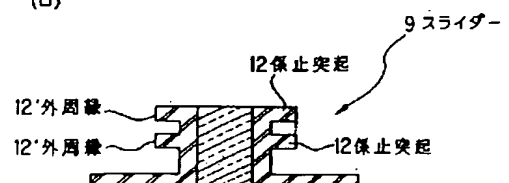
【課題】 棒状の糊体を確実に固持しつつ、スライダーに固持される棒状の糊体を最大限有効に使いきることができるようにする。

【解決手段】 棒状の糊体 (8) を固持するスライダー (9) を構成する板体 (10) の円柱状の中央部 (11) の側面に複数の係止突起 (12) を形成することにより、棒状の糊体とスライダーはこの係止突起を介して強固に係合するため抜出を防止できると共に、糊容器を横倒して使用することで、スライダーに固持される棒状の糊体は、スライダーの係止突起の外周縁まで使い切ることができる。

(イ)



(ロ)



【特許請求の範囲】

【請求項1】 尾栓と一体に形成されるネジ杆を貫通、螺合させると共に、尾栓の回動によりネジ杆を回転させることで、筒体内壁に沿って上下方向に昇降し、その固持される円柱状の固形の糊体を筒体より出沒自在となるものであって、上記ネジ杆が貫通することとなる板体の中央部を円柱状とすると共に、その側面において外方に向けて突出する単数或いは複数の係止突起を一体に形成してなる糊容器のスライダー。

【請求項2】 上記ネジ杆が貫通することとなる板体の中央部を上方に向かって先鋭化する断面テーパ形状とすると共に、その側面において外方に向けて突出する単数或いは複数の係止突起を一体に形成してなる請求項1記載の糊容器のスライダー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明が属する技術分野】この発明は、糊容器内に内装され、使用者の必要に応じて糊容器本体より棒状の糊体を出沒させてなるスライダーに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、尾栓と一体に形成されるネジ杆を貫通、螺合させると共に、尾栓の回動によりネジ杆を回転させることによって、このネジ杆が貫通、螺合するスライダーを筒体内壁に条設するスリーブに沿って上下方向に昇降させつつその内部に保持される円柱状の固形の糊体を出沒自在となる糊容器において使用されるスライダーは、中心に上記ネジ杆が貫通する貫通孔を有する有底無蓋の略円筒形に形成するものが一般的である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来の糊容器におけるスライダーのように、中心に上記ネジ杆が貫通する貫通孔を有する有底無蓋の略円筒形に形成するものであっては、このスライダーの上下方向への昇降により出沒自在となる棒状の糊体を保持するに当たっては側面と底面により保持するものであるため横方向に対しては強固に棒状の糊体を保持することができるが、縦方向、即ち上方に向かって引張られる場合にはスライダー内部において十分に保持されていないため、棒状の糊体の先端が被塗布物等の表面に接着してしまつて、棒状の糊体に対して引張力が加わった場合には容易にスライダー内部から拔出されることになってしまうものであると共に、このスライダーによって棒状の糊体を保持するに当たって、この棒状の糊体を成形する際に液体の糊体がスライダー内部にも充填されることとなるが、このスライダー自体が有底無蓋の円筒状、即ち断面凹状となっているため、スライダー内部において固化した糊体は、スライダーを形成する側面により被塗布物の表面に密着できず、スライダー内部に残存することとなつて、無駄になってしまうことがあり、たとえスライダーによって保持される棒状の糊体の不用意な拔出を防止

するように抜け防止手段をスライダー内に突設するもの（実開昭50-57539号）であっても、この抜け防止手段によりスライダー内部からの棒状の糊体の不用意な拔出は防止できるが、スライダー内に使い切ることができず、糊体が残存してしまうことは同様に防ぎようのないものである。

【0004】そのため、棒状とした糊体を最後まで使い切ることができるように、棒状とした糊体を保持しつつも上下方向に昇降させてなる受皿や押し出し板等を平面とするもの（実開昭52-110558号）、更に平面とした受皿や押し出し板等の表面に上方に向けて突出して棒状の糊体の底部と係合をすることとなる様々な突起を設けてなるもの（実公昭53-46855号等）が提案されている。しかしながら、棒状とした糊体を保持しつつも上下方向に昇降させてなる受皿や押し出し板等を平面として、受皿や押し出し板における側面を省略することによって、棒状の糊体を効率よく、上記受皿や押し出し板等の表面において上方に向けて突出する様々な突起の高さまで使い切ることができるようになるものであるが、この棒状の糊体を上下に昇降させる受皿や押し出し板等において従来のスライダーにある側面を省略して平面とし、またこの平面とした受皿や押し出し板等の表面に、実際棒状の糊体と受皿や押し出し板等との一体化のために係合することとなる様々な突起が主として上方に向けて突出して設けられているだけなので、棒状の糊体を突出させてスライドさせるだけでは、受皿や押し出し板等の表面に上方に向けて突出するように設けてなる様々な突起により径方向への引張力に対しては十分に耐えうるものとなつても、この棒状の糊体へ軸方向への引張力が作用した場合には、上記受皿や押し出し板等の表面に上方に向けて突出するように設けてなる様々な突起には軸方向には抵抗が生じないため容易に拔出してしまうものである。

【0005】また、平面とした受皿に保持されることとなる棒状の糊体に対して軸方向に引張力が加わった場合に容易に拔出することを防止するために、棒状の糊体中に一体に埋設され、平面状の受皿に線条体の先端に様々な形状の頭部を一体に形成してなる抜け防止手段を植立してなるもの（実開昭60-188516号）が提案されているが、確かにこの受皿の表面に植立され、棒状の糊体中に一体に埋設されることとなる抜け防止手段において、線条体の先端に様々な形状の頭部が形成されているため、この抜け防止手段を線条体と共に構成する頭部が抵抗となつて棒状の糊体に対して軸方向の引張力が加わつても容易に拔出してしまうことは防げるが、この抜け防止手段を頭部と共に構成する線条体は上下左右、あらゆる方向に対して折曲自在となつてしまうため、抜け防止手段として十分な剛性、特に径方向への剛性を確保することができないものであるため、この受皿による棒状の糊体の保持は不十分なものとなるおそれがある。

【0006】そこで、この発明は上記従来のものの有する問題点を解決するものであり、棒状の糊体の拔出等の不具合の発生を防止しつつ、効率よく棒状の糊体を使い切ることができるようにするものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】そのために、尾栓と一体に形成されるネジ杆を貫通、螺合させると共に、尾栓の回転によりネジ杆を回転させることで、筒体内壁に沿って上下方向に昇降し、その固持される円柱状の固形の糊体を筒体より出沒自在となるものであって、上記ネジ杆が貫通することとなる板体の中央部を円柱状とすると共に、その側面において外方に向けて突出する単数或いは複数の係止突起を一体に形成してなるものである。

【0008】更に、上記ネジ杆が貫通することとなる板体の中央部を上方に向かって先鋭化する断面テーパ形状とすると共に、その側面において外方に向けて突出する単数或いは複数の係止突起を一体に形成してなるものである。

【0009】

【発明の実施の形態】スライダにおいて、ネジ杆が貫通することとなる板体の中央部を円柱状とすると共に、その側面において外方に向けて突出する単数或いは複数の係止突起を一体に形成することで、棒状の糊体は係止突起をもってスライダと一体となり、特にスライダの係止突起は外方に向けて突出するものであるので、棒状の糊体が固化する前にこの係止突起の間に入り込んだ上で固化してしまうので強固に係合することとなるので、特に棒状の糊体に対して軸方向に引張力が加わってもスライダの係止突起と棒状の糊体との間で大きな抵抗が生じ、容易に拔出してしまうことを防止できると共に、棒状の糊体も糊容器をもって横倒させて使用することにより、スライダに側面がないためスライダの係止突起の外周縁まで使うことができるものとなる。

【0010】更に、スライダを、上記ネジ杆が貫通することとなる板体の中央部を上方に向かって先鋭化する断面テーパ形状とすると共に、その側面において外方に向けて突出する単数或いは複数の係止突起を一体に形成することで、棒状の糊体との係合する面積が増大することにより、棒状の糊体に軸方向の引張力が加わった場合に生じる抵抗がより大きくなると共に、スライダを構成する板体の中央部の半径が大きくなることから、径方向への剛性も高まり、スライダによる棒状の糊体の保持強度が著しく向上するものとなる上、棒状の糊体も糊容器をもって横倒させて使用することにより、同様にスライダに側面がないためスライダの係止突起の外周縁まで使うことができるものとなつて、使い切ることができる。

【0011】

【実施例】この発明を図に示す実施例により更に説明す

る。図1において示す、(1)はこの発明の実施例を具える糊容器であり、この糊容器(1)は、キャップ(2)により密閉自在となる糊容器本体(5)の筒体(3)内において、尾栓(6)と一体に形成されるネジ杆(7)を貫通、螺合させると共に、この尾栓(6)の回転によりネジ杆(7)を回転させることによって、ネジ杆(7)が貫通、螺合するスライダ(9)を、上記筒体内壁(4)に条設するスリーブに沿って上下方向に昇降させ、このスライダ(9)により固持される棒状の糊体(8)を筒体(3)より出沒自在となるものである。

【0012】そして、この発明の実施例を具える糊容器(1)を構成する筒体(3)内において、棒状の糊体(8)を固持しつつ、尾栓(6)と一体に形成されるネジ杆(7)を貫通、螺合させると共に、この尾栓(6)の回転によりネジ杆(7)を回転させることによって、ネジ杆(7)が貫通、螺合し、筒体内壁(4)に条設するスリーブに沿って上下方向に昇降するスライダ(9)においては、上記ネジ杆(7)が貫通することとなる板体(10)の中央部(11)を円柱状とすると共に、その側面において外方に向けて突出する複数の係止突起(12)を一体に形成してなるものである。

【0013】この発明の実施例である糊容器(1)のスライダ(9)が以上の構成を具えるので、使用者がこの発明の実施例である糊容器(1)を使用する場合に、この糊容器(1)を構成する筒体(3)内を上下方向に昇降することで固持される棒状の糊体(8)を筒体(3)より出沒自在となるスライダ(9)において、ネジ杆(7)が貫通することとなる板体(10)の中央部(11)を円柱状とすると共に、その側面において外方に向けて突出する複数の係止突起(12)を一体に形成しているので、スライダ(9)は棒状の糊体(8)と、このスライダ(9)の係止突起(12)をもって一体となり、特にこのスライダ(9)の係止突起(12)は外方に向けて突出して形成されるので、この棒状の糊体(8)が固化する前にこの複数の係止突起(12)間に入り込んだ上で固化するため、棒状の糊体(8)と強固に係合することとなるので、特にこのスライダ(9)と強固に一体となる棒状の糊体(8)に対して軸方向に引張力が加わってもスライダの係止突起(12)と棒状の糊体(8)との間に大きな抵抗が生じ、容易に棒状の糊体(8)がスライダ(9)から拔出してしまうことが防止できる。

【0014】また、使用者が使用に供する棒状の糊体(8)も、糊容器(1)をもって横倒させて使用することにより、この発明の実施例であるスライダ(9)に側面がないためスライダ(9)の円柱状の中央部(11)の側面に突出して形成される係止突起(12)の外周縁(12')まで使うことができるものとなるので、使用者は糊容器(1)内に内装される棒状の糊体(8)

を無駄なく使い切ることができるものでもある。

【0015】更に、図3において示すものは、この発明のその他の実施例である糊容器(1)のスライダ(9')であり、このスライダ(9')は、ネジ杆(7)が貫通することとなる板体(10)の中央部(11')を上方に向かって先鋭化する断面テーパ形状とすると共に、その側面において外方に向けて突出する複数の係止突起(13)を一体に形成してなるものである。また、図4に示すものは図3における断面テーパ形状の中央部(11')の底面の径を板体(10)の径と同径としたものであり、このようにしても、スライダ(9')に載置される糊体(8)を無駄なく使い切ることができるものである。

【0016】この発明のその他の実施例であるスライダ(9')が以上の構成を具えるので、この発明のその他の実施例である糊容器(1)内において、上下に昇降することで、一体に固持する棒状の糊体(8)を筒体(3)より出沒自在としてなるスライダ(9')と、このスライダ(9')に一体に固持されることとなる棒状の糊体(8)との係合する面積が増大することとなるので、使用者による使用により、この糊容器(1)の筒体(3)より突出してなる棒状の糊体(8)に対して、軸方向の引張力が加わった場合に生じる抵抗が著しく大きくなると共に、この棒状の糊体(8)を一体に固持してなるスライダ(9')を構成する板体(10)のテーパ形状の中央部(11')の半径が大きくなることから、棒状の糊体(8)に対する径方向への剛性も高まり、スライダ(9')による棒状の糊体(8)の保持強度が全体に著しく向上するものとなる。

【0017】その上、この発明のその他の実施例であるスライダ(9')に固持されることとなる棒状の糊体(8)は、この発明の実施例を具える糊容器(1)をもって傾倒させて使用することにより、上述したこの発明の実施例と同様にスライダ(9')に側面がないため、棒状の糊体(8)をスライダ(9')の係止突起(13)の外周縁(13')まで使うことができるものとなって、使用者が使い切ることができなくなる棒状の

糊体(8)の容積を最小限のものとすることができるものである。

【0018】

【発明の効果】以上のとおり構成することで、糊容器を構成する筒体内より出沒自在となる棒状の糊体は強固に固持されると共に、糊容器を横倒させて使用することにより最後まで使い切ることができたため、使用者の使用により棒状の糊体に対してあらゆる方向から引張力が加わっても抜出や折曲などの不具合が生じることを防止できると共に、糊体等の資源の有効利用を図ることができる優れた効果を有するものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の実施例であるスライダを具える糊容器の部分断面分解図である。

【図2】図2(イ)は、この発明の実施例である糊容器のスライダの全体斜視図であり、(ロ)は、その拡大断面図である。

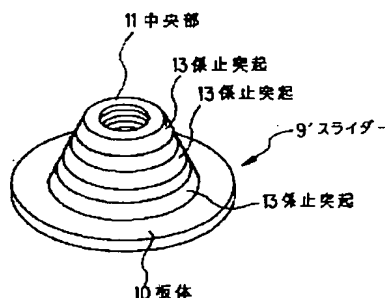
【図3】図3は、この発明のその他の実施例である糊容器のスライダの全体斜視図である。

【図4】図4は、図3の実施例と異なる実施例の縦断面図である。

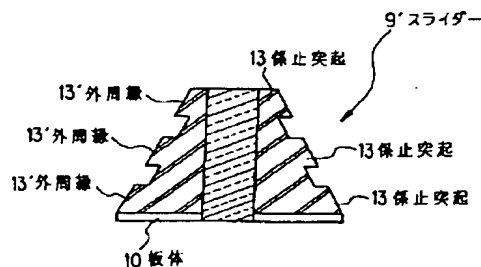
【符号の説明】

- 1 糊容器
- 2 キャップ
- 3 筒体
- 4 筒体内壁
- 5 糊容器本体
- 6 尾栓
- 7 ネジ杆
- 8 棒状の糊体
- 9、9' スライダー
- 10 板体
- 11 中央部
- 12 係止突起
- 12' (係止突起の)外周縁
- 13 係止突起
- 13' (係止突起の)外周縁

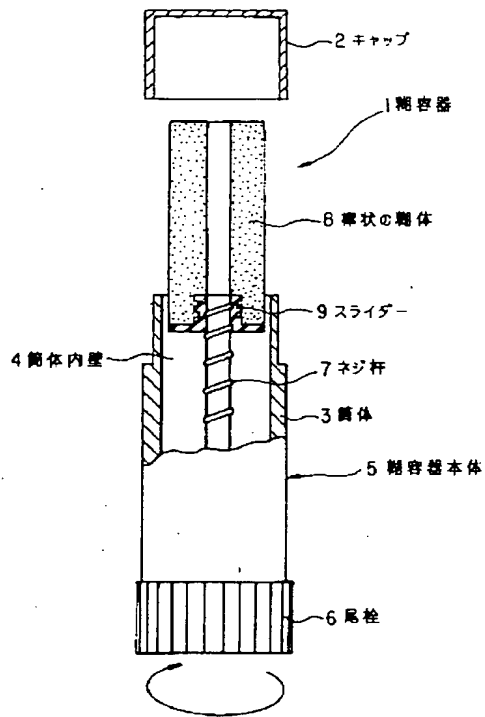
【図3】



【図4】



【図1】



【図2】

